心　友

Ｎｏ１５
令和５年１２月４日（月）発行
四万十市立中村西中学校
文責（校長）小野川　憲

男女別制服の見直し！制服検討委員会を立ち上げます。

「校則」から「心得」に変わり一週間がスタートしました。生徒の皆さん、学校生活はどうでしょうか。先週は期末テストがあり、明日から１・２年生は高知県学力定着状況調査が実施されます。そして、３年生は受検シーズンに突入します。とても大切な時期になりますが、一日一日を大切に生活してください。生徒会が大切にしてきた、「ちゃんとやる。当たり前を大切に！」毎日の積み重ね**で更に**強い西中生をつくります。頑張っていきましょう。

さて、生徒総会の要望にもあった「男女別制服の見直し」についてですが、制服検討委員会を立ち上げ、検討委員会のメンバーを中心に、制服の変更、見直しに取り組んでいくことになりました。

委員のメンバー：PTA 執行部（植田英喜さん、山崎奈緒さん、濱川高子さん）
学校　　（生徒会執行部、管理職、事務職）

今まで当たり前のように存在してきた今の「制服」ですが、ジェンダーレス・選択の自由など時代の要請に伴い「制服」の見直しに西中も取り掛かります。数年かけて完全移行していく予定ですので小学校、中学校の保護者の皆様へも説明を重ねて周知していきご理解、ご協力をいただきたいと考えております。

今後の予定といたしましては 12 月中に第 1 回制服検討委員会を実施予定です。
〇業者の方に来ていただき、既に取組をしている他校の事例をお聞きし、見直しを進める意味などについても学習をします。また、実際の制服も何種類か見せていただいたり試着したりして検討してまいります。

【制服の見直しにあたり、ぜひ皆さん読んでください！】

皆さんに読んでもらいたい意見作文があります。この意見作文は、２年生の岩本明紗さんの作文です。つどい祭の意見発表でも発表してもらっていますので、皆さんも一度聞いていると思いますが、文章でしっかり読んでもらいたいと思い載せています。ぜひ保護者の皆さんも読んでみてください。

「今、考える」

中村西中学校　岩本　明紗

よく聞くようになった「LGBTQ」「ジェンダー平等」という言葉たち。これらの言葉は、今では他人事とは思えないくらい当たり前になっている。生徒会の考えた学校目標、「ちゃんとやる～当たり前を大切に～」にある「当たり前」には「男女平等」「ジェンダー平等」も含まれていると思う。

私は生活安全部に入っているので、以前募集した学校をより良くするための要望を話しあっていた。その要望は、「自転車小屋を広くしてほしい」や「更衣室を広くしてほしい」「部室に扇風機がほしい」など学校の校舎自体の不満がほとんどだった。その要望が可決か否決かスムーズに決まっていった。しかし、「男女制服指定の廃止」という要望が出た瞬間、その流れが一気に止まり、意見も割れた。私の意見は廃止しない。なぜなら、校内で、男子で女子の制服、女子で男子の制服を着たいという人を見たり聞いたりしたことが全くないからだ。廃止しない側の理由に、もし異性の制服を着たらその人が変だといじめられるかもしれないというものがあり、それに納得した。しかし、異性の制服を着るといじめられるという時点で、男女差別が起こってしまって

いるという反論もあった。「男女制服指定の廃止」の議題で一時間以上話し合ったが、結局廃止するか廃止しないか意見がまとまらず、全校生徒にアンケートを取ることにした。その結果は半々。廃止するという人達の理由は、個人の自由だから、好きな制服を着ればいいからが多かった。対して、廃止しないという人達の理由は男子が女子の制服、女子が男子の制服を着たいと思っている人がいないと思うからが多かった。自分もその中の一人だが、どちらの意見も「個人の自由」や「きっと異性の制服を着たい人がいないはずだから」など、完全に自分には無関係で他人事として捉えている人が大半だと感じた。

もし、自分が男子の制服を着るように強要されたら嫌だ、着たくないと思ってしまう。そう思うのと同じように、男子の中でも男子の制服が、女子の中でも女子の制服が嫌だ、本当は着たくないと思っている人がいるかもしれないということに気付いた。中学校という狭い中で見ると、珍しいことかもしれない。しかし今では、それほど珍しいことではなくなっている。

中学校という狭い括りの中ではなく、日本や世界を見てみると、体は男性で心は女性の人や体は女性で心は男性の人、同性愛者の人達も、すごくキラキラした舞台、ステージに立っていたり、世界の多くの人から注目されたりしている人もたくさんいる。でも、やっぱり身の回りにそんな人がいないと他人事だと、自分には関係ないことだと勝手に思ってしまっている。

小学校の頃、小学校にいたピンク色のランドセルの男の子、髪の毛が長く括っている男の子、かっこいい靴を履いた女の子。その子達を見て言った。

「男の子なのにね。」　「女の子なのにね。」

その時は誰かを傷つけてしまっているかもしれないとも思わず、男の子っぽく、女の子っぽくしないんだとしか思っていなかった。何とも思わずに言ったその言葉が実はすごく人を傷つけてしまっていたのかもしれないということが分かった。自分がもしその立場だった時、どうにかして本当の自分を隠そうとしないといけないと思ってしまい、とても過ごしにくいと感じると思う。

全校生徒に聞いた、「男女制服指定の廃止」の理解に繋がらない理由の一つだと思った。昔は認められにくかった「LGBTQ」、「ジェンダー平等」も今では認められやすく、全ての人が生きやすい社会になっている。でも、まだ全部が全部認められているわけではない。

そして、私は制服指定を廃止するという意見に変わった。理由は好きな制服を着てもいいとなると、みんなが多くの時間を過ごしやすいと感じるようになると思ったからだ。

社会が、この世の中が生きやすくなる為に大切なことは「みんなで」生きるということだと思う。誰一人置いていかない。様々な立場の人がいて、様々な考えの人がいるこの世の中でお互いの意見に耳を傾ける。人を思いやる、分かち合う。そんな一人一人の行動が未来を変えると思った。誰にも悩みを相談できず溜め込み続け、出した結果が命を絶つ事にならないように、周りが寄り添うことができ辛い人が少しでも減ってくれたら嬉しい。

将来の日本を担うことになる私達が何かでアクションを起こすことができればみんなが生きやすい世の中に一歩でも近づけると思った。

「当たり前を大切に」、学校生活にも社会生活にも共通するこの言葉を忘れない。

皆さん、どのように感じ、どう思いましたか。学校や社会で、みんなが生活するうえで大切なことに気付かせてくれたのではないでしょうか。また、この岩本さんのような考えに至るには、生徒会・生活安全部の真剣な議論・話し合いがあったからだと思います。学級などで行う仲間との真剣な議論も大切にしていきましょう。

この岩本さんの作文は、『人権作文コンテスト高知県大会　優秀賞（高知新聞社長賞）』を受賞しています。